



きょう かい

教誨あれこれ

全国教誨師連盟広報誌

第8号

令和4年9月発行

公益財団法人 全国教誨師連盟
東京都中野区新井3-37-2

教誨師(きょうかいし)は、
刑務所などに収容されている人との対話を続けています。

令和4年に 近代宗教教誨150周年 を迎えました。

岡崎医療刑務所での教誨

伊奈 教誨師



私は昭和59年4月、岡崎医療刑務所教誨師に着任しました。今、改めてその歩みを振り返り、何と多くの人々に支えられたことかと感謝いたしております。

岡崎医療刑務所は全国でも数少ない、施設の所長は医師の資格を持つドクター

であります。また、職員の中には医療看護のため看護師の姿もみられます。

岡崎医療刑務所はM級施設として精神障害者、知的障害者を収容し、精神的治療を必要とする施設であります。受刑者の6割が精神障害等を持っており、専門医師による治療を受けています。窃盗犯が多く、受刑者の約半数を占めています。

教誨師は仏教、神道、キリスト教など、各宗派で構成し、現在8名が教誨を担当しています。教誨師は原則年7回教誨堂にて、集合教誨をいたします。時間は40分という限られた時間の中、教誨堂に集まってきた10人前後の受刑者と仏壇の前で教誨をいたします。

私は教誨堂の入口で一礼し、お仏壇にまず合掌礼をして、その後、被収容者と挨拶をかわします。お話の前に約10分『正信偈』のお勤めを被収容者と共にいたします。その後、真宗の宗祖親鸞聖人の言葉を端的に紹介したり、仏教の教えを通して、自分自身をみつめ更生の道を学びます。

教誨師は罪を犯した受刑者の前で、改善更生の道を説くことが仕事であります。しかし、一方、宗教家として高い塀の中にいる受刑者と、外にいる私がどれだけ中味が違うのか、よく考えさせられることがあります。もちろん、刑務所は罪を犯した受刑者が罪の自覚にめざめ刑に服する所であることは当然であります。従って、刑務所は今日矯正施設といわ

れ、1. 受刑者の改善更生を誓う教育の場であり、2. 自己の犯した罪の自覚と被害者やその家族への贖罪を明らかにする大切な場であります。そのために受刑者の願い出により「教誨」がなされています。

しかし、一人の人間として、受刑者に接する時、「人生を生きる」悩みや悲しみ、苦しみは、塀の外の私たちも同様であります。

受刑者一人ひとりとはそれぞれ罪を犯し、時には人を傷つけ、また、人のいのちをも奪った許し難い存在であります。殺された被害者の無念なおもいと悲しみは永遠に消えることはありません。

教誨はそうした受刑者を対象として行われています。取り返しのつかない重大な罪を犯した犯罪者が、自身の犯した罪の重さに頷いた時、はじめて、人間が人間の心を取り戻すのではないのでしょうか。

教誨は宗教的救済における平等の慈悲の世界であります。教誨の現場を通して、この1点を受刑者と共に学び、出遭っていきたいと思います。

受刑者の改善更生の道は、現代社会を生きる私たち一人ひとりの生きる道でもあります。社会全体が健康にならなかつたら、犯罪のない、平和で安全な社会は実現できません。

刑事施設に対する正しい認識と犯罪防止に対する一人ひとりの協力の必要性を述べ、私の教誨の一端とさせていただきます。

刑務所の運動場に、母にいだかれた幼子の母子像が立っています。受刑者一人ひとりに改善更生の道を願っている母の心ではないのでしょうか。合掌



母子像

(真宗大谷派 岡崎医療刑務所・名古屋刑務所
岡崎拘置支所教誨師 伊奈 祐諦)

被収容者の生活について【衣類】

昨年度は、矯正施設の食事について調査してみました。映画やネットではクサイ飯（ご飯には3割程度の麦が入っている）・まずい飯等といわれていますが、どうやらそれはフィクションで、メニューは豊富でカロリー計算もされていること、季節に合ったメニューやおせち料理や行事菜（例えばクリスマスにはケーキや鶏モモ）等、矯正施設は被収容者に対して、一般社会人と同じように健康で文化的な食生活を送るように配慮していることがよくわかりました。一般的においしいものを食べると気持ちは落ち着き、その日あったいやなことを忘れることができますが、施設に収容されている彼らに無用なストレスや寂しさ等を感じさせないように、また、無用な苦痛を与えないようにする上では食事がとても重要なことがわかりました。

さて、今年は衣類について調査してみました。囚

人服・ボーダー（横じま）服等といわれ良いイメージはありませんが、学校に制服があるように、多くの被収容者を少ない職員で処遇するには、管理運営上、保安警備上、制服のようなものが必要となります。また、社会での貧富の差を持ち込ませないためにも制服のようなものは必要です。別添の写真を見ていただければわかるように、男子受刑者も女子受刑者もカラフルな色の制服（工場着・居室着）を着ていることがわかりました。また、その服はサイズも色々あること、ウエストを多少調整できるように腰骨のあたりにマジックテープがついていること。金属製のチャックやベルトや腰ひもは自傷や縊首の道具となることから、ついていないことがわかりました。女子受刑者の寝間着はピンクの花柄でとても明るいものでした。それに比べ男子受刑者の寝巻着はグレーとブラックのストライプで落ち着いた感じでは



男子受刑者の居室着



男子受刑者の居室着



女子受刑者の居室着



女子受刑者の職業訓練着



女子少年院 茶道クラブ

が、着たいとは思いませんでした。

下着は私物や施設内で購入したものを着ることができます。昔の矯正施設の洗濯物干場は、シャツもパンツもシーツも枕カバーも白色しかなかったようですが、最近は色とりどりの柄パンツが干してあるそうです。ただし、洗濯は全自動洗濯機で行うようになり、自動乾燥することから、その風景もあまり

見ることができなくなったそうです。工場着は、その作業や訓練の種類によって異なります。

矯正施設には自給自足の原則があり、衣類は加古川刑務所を中心に松山刑務所や青森刑務所、丸首シャツを月形刑務所、メリヤス（ももひき）を徳島刑務所で製作しています。ちなみに職員の制服は釧路刑務所で製作しています。全国矯正展で矯正支援官が着ている制服も刑務所で作られています。

なお、少年院の制服のジャージやボロシャツは、衣類量販店から購入したものが多くいます。

最後に、このように矯正施設では衣類等を作る縫製作業を行っていたことから、コロナ禍には医療従事者のための医療用ガウンを作成し届けることができました。

今回は矯正施設の衣類について調査しました。矯正施設の衣類について、読者の皆様のイメージは変わりましたか。矯正施設を正しく理解する一助になれば幸いです。
（文・事務局）

第62回全国矯正展(全国刑務所作業製品展示即売会)開催

※詳細記事は7ページです。



法務省矯正支援官

左から 金メダリスト(スピードスケート) 清水宏保・ものまねタレント コロケ・歌手 EXILE ATSUSHI・歌手 ベベ・俳優 杉良太郎[特別矯正監]・歌手 ベベ・芸人 ゴルゴ・落語家 桂才資・俳優 石田純一(敬称略)

近代宗教教誨150周年記念式典開催される

近代宗教教誨150周年記念事業として、祝賀セレモニーを令和4年7月19日、東本願寺しんらん交流館大谷ホールで開催いたしました。

来賓として、真宗大谷派御門首様、法務大臣(代理)、公益財団法人日本宗教連盟理事長(代理)、公益財団法人矯正協会理事長、公益財団法人全国篤志面接委員連盟理事長、法務省矯正局長、大阪矯正管区長、法務省矯正局成人矯正課長、京都刑務所長、京都拘置所長、京都医療少年院長、京都鑑別所長が参加していただきました。

当連盟からは、総裁、各教宗団代表者、顧問、参与、理事、監事、評議員(大阪矯正管区教誨師連盟)、京都府教誨師会、式典役員、事務局が参加しました。



真宗大谷派 御門首
大谷 暢裕 様



浄土真宗本願寺派 御門主
全国教誨師連盟 総裁
大谷 光淳 師

令和2年・同3年に叙勲・藍綬褒章、法務大臣表彰、日本宗教連盟理事長表彰、全国教誨師連盟総裁表彰の教誨師の皆様は、コロナ禍のため例年の通りの表彰式が実施されておらず、自宅に表彰状・感謝状が郵送されただけの方もいらっしゃいました。そこで、式典にはその受章者、被表彰者の皆様にお集まりいただき、その栄誉を称えました。

公益財団法人全国篤志面接委員連盟理事長からいただいた祝辞を紹介いたします。

祝 辞

本日、ここに近代宗教教誨150周年記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

矯正施設における宗教教誨は、被収容者に信教の自由を保障すること、被収容者の心に寄り添い、一人ひとりが抱える心の悩みに向き合い、心情の安定と人間性の回復を目指すことでその改善更生を促すことを主たる目的として実施されていると伺っておりますが、一方、私どもが行っております篤志面接活動は、改めて申し上げるまでもなく矯正施設の運営に協力し、被収容者の円滑な社会復帰と改善更生を図るための矯正指導や矯正教育を支援する様々な

活動に従事しております。両者の活動は、ともに矯正施設を支援する民間篤志家の活動として、いわば車の両輪として重要な役割を果たしてまいりました。

ところで、宗教教誨の歴史は長く、我が国が明治維新を経て近代国家としての歩みを始めた明治5年に真宗大谷派の僧侶が当時の監獄や徒刑場において、囚徒に対する説教を願い出て実施したのがその始まりと聞いております。当初は、囚徒を救済するためのボランティア活動でしたが、その後、近代行刑を目指す監獄の教化・教育においてなくてはならない重要な存在となり、我が国における近代的な被収容者処遇の実現に多大な貢献を果たされました。

第二次世界大戦後、宗教教誨と国家との関係が見直され、その位置づけが変わりましたが、しかし、今日に至るまでの150年間にわたり連綿として矯正施設における被収容者の精神的救済と人間としての徳性の涵養の分野において果たされてきた大きなご功績に対して改めて深く敬意を表するものであります。そして、第二次世界大戦後に私たち篤志面接委員制度が誕生し、ほどなくして定着することができたのも教誨師の皆様のそれまでの歴史があったからであり、改めて感謝を申し上げたいと思います。

ところで、先の通常国会において刑法等の一部改正が成立し、懲役・禁錮の刑が拘禁刑に統一されるとともに、刑務作業に替えて改善更生と社会復帰に必要な改善指導や教育プログラム等の実施ができるようになるとのことですが、今後、刑事施設においてますます矯正指導が重要になることが予想されます。また、少年院におきましても、少年の立ち直りを支援する様々な教育指導等がますます重要になってきています。これからの新たな時代にも、私ども連盟も教誨師の皆様と共に手を携えながら矯正施設と被収容者のニーズに応えてまいりたいと希望しているところであります。

また、本日は、長い間にわたり教誨師としてご功績を積んでこられた方々に対して、令和2年度及び3年度の叙勲・藍綬褒章、日本宗教連盟理事長感謝状、法務大臣表彰、全国教誨師連盟総裁表彰の受賞式が執り行われると伺っておりますが、今回受賞されました皆様、誠にありがとうございます。改めて、皆様のご功績に対して敬意を表したいと思っております。

最後に、全国教誨師連盟のますますのご発展とお集まりの皆様のご健勝を祈念し、お祝いのことばといたします。

令和4年7月19日

公益財団法人 全国篤志面接委員連盟

理事長 室井 誠一

管区通信員だより

開拓のご労苦を偲んで

札幌管区

網走の人口が631人であった明治23年4月、「釧路監獄署網走囚徒外役所」が現在の網走刑務所の地に開設されました。同25年3月31日に教誨堂が完成、初代教誨師阿部政恒師（キリスト教）が着任し教誨が始まりました。それから130年、仏教や神道、キリスト教等、多くの教誨師が被収容者の改善・更生を願い、教誨に従事し、連綿と引き継がれて今日に至っております。



網走刑務所正門

日本の黎明期であった明治の北海道、未開の地を開墾した先人の労苦は計り知れないものがあります。そのような中、外役所に収容されていた方々は、中央道路開削工事（網走から北見峠までの道路開削）等の、今では想像を絶する過酷な重労働を強いられました。資料によりますと、明治24年の網走囚徒外役所の収容人員は1,200名、物故収容者数は186名とあり、開設から1年で186名の方が尊い命を落とされております。

網走刑務所に隣接している大正山に明治38年に開設された北山墓地があります。そこには三基の合葬墓碑が本州を望むように建てられており、開設以



北山墓地

来亡くなられた1,320名の方々を埋葬しております。例年10月には「北山墓地慰霊祭」として法要を執り行っております。また、その近くには職員とその家族の合葬碑も建てられており、墓碑には「俱会一処」と記され、互いの立場を超えて浄土往生への願いが込められております。



被収容者の合葬墓



職員の合葬墓

今日、私たちが豊かな生活をおくることができるのも、先人たちの並々ならぬご労苦のおかげであり、「ありがとうございます」の感謝のことばしかありません。

（浄土真宗本願寺派 網走刑務所教誨師 河崎 琢哉）



管区通信員だより

滋賀刑務所閉庁にあたって

大阪管区

今から18年前、私は滋賀刑務所に教誨師として通うようになりました。それまで、刑務所に立ち入ったことのなかった私には、刑務所内で被収容者の方と直接面談することにかかなりの緊張感がありました。そんな私に刑務官さんが「漢見さん。着任したばかりの教誨師さんには、被収容者がからかったり脅かしたりすることがありますので注意してください」とアドバイスをくださったものですから、初めの頃の教誨はいつも心臓がドキドキしていました。しかし、あれから18年。からかわれたり脅かされたりはおろか、声を荒げられたことさえ一度もありませんでした。

私と同じように緊張されていたり、ひどく落ち込んでおられたり、真剣に悩みを話してくださったり、私の話に涙されたり。緊張感はやがて、被収容者の方に会うことを楽しみにさえ感じるようになってきました。

私の緊張感が溶けていったのは、被収容者と教誨師の私との間には、人間として何の違いもないと感じるようになったからです。初めの頃の私は、刑務所の中にいる人は罪を犯した特殊な人たちだという思いがありました。私とは異質な人たちの集まり、それが刑務所なのだという思いです。ところが、実際の教誨の中での被収容者の方々の様子を通じて、服装こそ違えども、そこに人間の良し悪しの違いはないということを知らされたのです。

そもそも、罪を犯すために生まれて来た人は一人もいないでしょう。しかし、生きていく中での様々な出会いや出来事が「縁」となり、性格が形成されたり

生活スタイルが確立したりする中で、時に犯罪に至ってしまうのです。ですから、良い人間だから教誨師をしているのでもなく、悪い人間だから被収容者なのでもないのです。そこには「縁」の違いがあるだけ。被収容者の方には罪に至るだけの縁が整ったのであり、私にはその縁が今はまだ整っていないだけのことなのです。教誨師の私も、縁さえ整えば罪も犯すし被収容者にもなるのです。

ただし、だからと言って罪に至った原因はその縁にあって、当人には罪の責任はないと言っているのでは決してありません。罪に至ってしまった限りは、その罪を悔い改め、被害者があるならば心から謝罪をし、二度と同じ罪に至らぬよう努力を怠ってはなりません。そして、その努力が無駄にならぬよう、失敗を認め許し、立ち直りを強く支援できる社会を作るべく、私たち教誨師も努力を怠ってはならないと思います。

(浄土真宗本願寺派 京都刑務所教誨師 漢見 寛恵)



漢見 教誨師

研修会をDVDで配付

広島管区

令和3年6月24日、第29回広島矯正管区教誨師研修会が岡山会場開催予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。しかし、同年10月4日、広島矯正管区教誨師連盟臨時理事会の中で、講演予定でありましたお二人の講師による講演の動画を撮影してDVDを作成、広島矯正管区の教誨師全員に配付することとし、新しい研修会になりました。

内容は、



奥村 教誨師

管区通信員だより

①基調講演

演題 「地域へつなぐ」

～刑務所の福祉支援～

講師 岡山刑務所法務技官福祉専門官

金島 智之 氏

②記念講演

演題 「声とともに劈く新しい時代」

～刑務所ラジオが寄り添う 変化の瞬間にふれて～

講師 立命館大学大学院人間科学研究科

近藤 優佳 氏

このDVDを広島矯正管区教誨師全員に配付させていただきました。

(浄土真宗本願寺派 岡山刑務所教誨師 奥村 宏道)

全国教誨師連盟の広報活動

第62回全国矯正展（全国刑務所作業製品展示即売会）開催される

令和4年6月4日（土）及び同6月5日（日）、科学技術館において、第62回全国矯正展（全国刑務所作業製品展示即売会）が開催されました。

全国矯正展は、“社会を明るくする運動”の中央行事の一環として、再犯防止に向けた矯正施設の取組等の紹介や、全国の刑務所で受刑者が、改善更生や社会復帰を目指して製作した製品の展示販売を通じて、矯正行政の現状について、皆様に広く知っていただくことを目的としています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、本年までの3年間中止を余儀なくされてきましたが、本年は「社会に支えられ貢献する刑務作業～コロナ禍の中で～」をテーマにコロナ禍における刑務作業の現状等について、パネル等での紹介もありました。

例えば、コロナ禍、全国の医療機関では感染防護具（特に医療用ガウン）が大幅に不足しました。そこで、医療従事者の安全確保のために少しでも刑務所

が貢献できないかと考え、受刑者が刑務作業で培った縫製技術を生かして全国の刑務所42施設で約140万枚の医療用ガウンを縫製し関係機関に届けたそうです。

この作業に従

事した受刑者からは、「社会の一員としてやりがいを感じた。」「社会に迷惑をかけていたことを見つめ直す機会となった。」「少しでもチカラになれたことに感謝したい。…」などの声が聞こえ、医療従事者の方からも感謝や激励の手紙を受けたことは、彼らが再犯に陥ることなく、社会の中で、人と関わり合いながら生活していくことの大切さを理解するための、重要なきっかけとなったと思います。（第62回全国矯正展リーフレット引用）

この会場には、当連盟の他、篤志面接委員連盟、いのちのミュージアム等の犯罪被害者支援団体、更生支援施設、法テラス、日弁連、保護局、警察庁、厚生労働省、東京都、日本財団等がブースを設け、それぞれの活動を紹介していました。当連盟は、全国教誨師連盟のリーフレットや「教誨あれこれ」の配布、教誨紹介DVD「心のやすらぎをもとめて」の放映を行うなどの広報活動を行いました。ポスター「教誨（きょうかい）」という字を指してこの字はなんと読むのかという質問から、教誨師になりたいがどのようにすればよいか等、教誨師に対する質問が数多く寄せられ、あっと言う間の2日間でした。

いろいろな団体が、矯正施設に収容されている被収容者に対し、彼らの更生復帰のために、多方面からの活動をしていることが改めて理解することができました。そして、教誨は平安時代から始まり、近代宗教教誨は本年で150周年を迎えましたが、当連盟の果たす役割の大きさを感じ、教誨師の皆様の教誨活動が益々活発に行えるよう努力しなければならないと決意を新たにしました。（事務局）



第62回全国矯正展

更生の手がかりとしての書写（写経）

いつも私たちの活動をお支えくださっている全ての皆様に心より厚く御礼申し上げます。

立川拘置所での書写指導についてご紹介申し上げます。

当所には様々なクラブがあります。中でも、教誨師が中心となって活動する坐禅クラブは、坐禅のほか、書写も実施して参りました。

このクラブは曹洞宗の林秀典師、臨済宗円覚寺派の山中正美師のご発願により平成25年の春、スタートしました。坐禅だけでは飽きてしまうかもしれないということで、非力ながら書写担当として私も加えていただきました。

新型コロナウイルス感染症が教誨活動を脅かすまで、年間平均11回行い、部員は年間累計最多で100名、9年間の累計人数は464名でした。

林師は1時間の中で、40分間の坐禅の実践、山中師は前半に10分間2セットの坐禅をし、後半は、好きなように自分のペースで書写をされます。

書写のみ、1時間担当する私は、始める前に背筋を伸ばして座り、目を閉じて自己観察をします。その日の心と体と呼吸の状態をあるがままに観て参ります。呼吸と心と呼吸の状態が連動していることを意識するようにします。その後、肩、首、手首、指先、体側などのストレッチを行います。

心身の調整がおわると、各自、用紙の補給を行います。各自準備ができた順に書写に入ります。難しい字は適当に書かないよう板書し、注意を促すようにしています。使用している紙も文字も大きく（写真をご参照ください。）グレーで印字してあるため、間違える箇所は難しい字の細部のみです。どの字を書いているのか、しっかり自覚して書くために、左側に経本の同じ箇所を開いておくことを勧めています。

どの方もいつも大変熱心に筆を動かしておられます。身体が凝り固まらないように30分経過した時点で読経を入れます。この時、数名を経題の発音担当とし、残りの部員が続けて読むようにすると、より一層声が大きくなります。声を出してリフレッシュし、集中力もアップし

たところで、書写に戻ります。

終了の聲がけをする時はいつも心苦しく思います。挨拶をする前の部員の顔は始まる前より少し引き締まった清々しい表情をしています。それぞれの達成感を感じる短いひとときです。

クラブ活動の他に、個人教誨のプログラムにも書写、写仏を取り入れております。こちらをご希望される方が大変多くいらっしゃいます。初めて宗教に触れる入口となるようです。

特に書写は、個人教誨の場合、宗教的意味合いをより濃くします。宗派の作法に従い、一字一字丁寧に祈りを込めて書くように指導します。願意を書く際に思いが昂り、泣き出してしまう方もいらっしゃいます。共に慎んで祈念をさせていただいております。合掌

（真言宗智山派 立川拘置所教誨師 渡辺 照香）



『延命十句観音経』

全国教誨師連盟は皆さまからのご寄附により運営されております

犯罪者や非行少年等の改善と更生のために活動している教誨師にご理解とご支援をお願いします。

寄附金受付口座（郵便振替）00130-4-46544

公益財団法人 全国教誨師連盟 TEL 03 (3389) 7411